

行政視察報告

協働のまちづくり

岐阜県高山市・富山県射水市へ



高山市で説明を受ける委員

高山市では地区ごとにもちづくり協議会を設置し、全市20協議会に2億5000万円ほどの支援金を交付し、自主的な取り組みを支援するとともに、地区担当職員を配置し地区と行政のパイプ役として人的支援も行っています。射水市でも同様に、まちづくり協議会にあたる地域振興会に支援金を交付していましたが、それをさらに地域の裁量で再分配することを可能としています。また、その他に様々な団体からの公募による提案型事業や、人材育成のまちづくりプラットフォーム事業も実施していました。両

総務教育 常任委員会 7月3日～5日

県内で最も人口密度の低い市となつています。公共交通の幹線と支線の体系見直しや、スクールバスとの混乗、タクシー利用の通院支援策など、職員による徹底した現場主義を通じ地域公共交通のみならず、様々な課題解決に取り組んでいます。飛騨市長から説明いただいた「人口減少を止めようとはしない。未知の発生する課題への対応が求められている」との言葉が印象的でした。

岐阜県飛騨市の 地域公共交通計画

飛騨市は人口減少に伴い、ましては、活性化している地区もあれば、そうでない地区もあり、意識も様々であることを伺いました。

市とも、財源としては自治会や地区社協など様々な形で地区ごとに支給される補助金などを一括して、まちづくり協議会への支援金と交付して

います。また、現在の状況として



飛騨市の公共交通

大阪で子育て対策を学ぶ

待機児童への対策や、子育てに係る施策などを学ぶため、大阪府泉大津市と箕面市を視察しました。

泉大津市では、公立の幼稚園と保育所主導でこども園化を進め、民間の子ども園化の整備には、補助や助言などの支援を行っており、私立保育所（幼稚園はない）は全て子ども園へ移行しています。民間の力を借りて施策の展開を推進するため月1回、7



箕面市の子育てに関する
ワンストップ窓口

園ある民間の認定こども園の代表と会議を開き、待機児童の解消等の解決に向け協議しています。箕面市では、待機児童ゼロを目指し、5年間で約700人分の保育所定員を増員しました。保育料に対する補助

民生 常任委員会 7月3日～5日

管理者と医療の質の向上を主導する院長との責任を明確化するとともに、DPC（包括医療費支払制度）における診療報酬への適切な反映、患者サービスの向上等に取り組んだ結果、患者1人当たり診療収入が入院外来ともに大きく増加しています。病院経営責任の明確化と経営状況の見直し、医療の質や患者サービスの向上等の重要性を感じました。

八尾市立病院では平成16年から導入した、民間のノウハウを活用するPFI事業に迅速に対応できる経営形態として、平成21年度から地方公営企業法を全部適用（管理者を置き、市から独立した権限を得ることで機動的に活動できる）しました。健全経営を主導する事業

金を設けているため、公立幼稚園との格差がほとんどありません。また、こども手当や保育所の申込などの手続きの「子ども総合窓口」を開設するなど、「子育てしやすい日本一」を目指して環境作りを進めてきた施策に学ぶところも大いにあると実感しました。

八尾市立病院の経営改善